平成２８年度　学校評価（自己評価書）

あま市立宝小学校

１　総括

（１）教育目標（学校経営案より）

「やさしい心　つよい体」

知・徳・体の調和のとれた人間形成をめざして、基礎・基本を重視しつつ個性と創造性を伸張し、生きる力と人間性豊かな児童の育成を図る。

（２）本年度の重点努力目標

ア　基礎学力の定着

・　小人数指導やＴＴ指導の指導方法を工夫し、個に応じた学習指導の充実を図る。
・　国語タイムを活用し、言語活動の充実を図る。
・　ＩＣＴを活用した効果的な学習形態の充実を図る。
・　習得した知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力の「３つの力」を育成する。

イ　心豊かな児童の育成（小規模校の特徴を生かして）

・　「宝っ子６つの約束」の実現をめざし、規範意識の醸成に努める。
・　学び方を学ぶための異学年交流の場を設定し、広い視野をもった児童の育成に努める。
・　道徳の時間を核に、自己肯定感と責任感の両面において調和のとれた児童の育成に努める。
・　「全校で１年生を育てよう」を合言葉にし、小一プロブレムの軽減に努める。
・　心豊かな児童を育成するために学級経営の方法を学び合える場を設定する。

ウ　家庭・地域の教育力の活用

・　保護者・地域ボランティアを授業などに積極的に活用し、学校理解を図るとともに家庭や地域との連携を深める。
・　キャリア教育の充実をめざし、体験活動を通して互いに高めあう仲間づくりや勤労観の育成に努める。
・　伝統工芸「七宝焼」とのかかわりを核に地域との交流を広げる。

２　自己評価の実施体制

（１）調査時期　　平成２８年１２月１２日～１８日（保護者・児童・教職員）
　　平成２９年　２月　３日（学校評議員）

（２）調査項目　　別紙アンケート結果参照

（３）調査対象（有効回答者数／対象者数）

・児　童　１５７名／全１５７名　・学校評議員等　４名／全　４名
・保護者　１５２名／全１５２名　・教職員　　１０名／全１０名　計３２３名

３　調査結果

別紙アンケート結果参照

４　考　　察【児童、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

（１）全体を通して１６項目中１３項目がＡでありおおむね良好である。昨年度と比べても、達成度は、１６項目中１２項目で評価が同じもしくは高くなっている。自己評価がＡとなる項目を除くと、低くなっているのは、１項目である。

（２）本年度は、昨年度と比べて、１６項目中児童は１４項目、保護者は４項目、教職員は１４項目の評価が同じもしくは高くなっている。児童、保護者、教職員の内、二者が昨年度と比べて満足度が高くなっていることが分かる。保護者は、多くの項目でやや評価が下がっている。児童・教職員の評価が同じもしくは上がっていることから、取り組みや成果を積極的に保護者に伝える必要性があると思われる。

（３）昨年と比べて際立って評価が高くなっている項目は、「計画的な英語活動の推進」であった。特に教職員の評価が上がっている。達成度もＡに上がっている。

（４）教職員における評価は、ほぼ自己評価がＡとなっている。職員一人一人が意欲的に取り組み、かつ職員集団としてまとまり充実していた成果だと思われる。しかし、それが、児童や保護者に反映されてない。児童が成果を認識できるように働きかけを工夫していく必要がある。

５　成果と課題

（１）英語活動の教科化に向け、ＡＬＴと担任・教務主任で活動内容の打合せ等を積極的に行ったことにより、特に教職員の評価が大きく高くなった。保護者の評価も上がっている。

（２）「行きたい学校」は、２項目とも評価が上がっている。自己評価もＡである。様々なふれあい学びあいの取り組みや一人一人によりそった指導の成果であると考えられるしかし、児童のアンケート「学校へ行くのが楽しい」への肯定的な評価は、８７．２％で、あま市の目標である９５％を下回っている。学年別では、５・６年生の評価で低い傾向が見られるため、さらなる工夫が必要である。

（３）「指導方法を工夫し、児童に力を付ける」では、昨年に続き児童・教職員が同じもしくは評価が上がっている。しかし、自己評価は、Ｂのままであるため、引き続き主体的な学習活動ができるよう工夫していく必要がある。

（４）「豊かな心を育む読書指導」は、三者とも評価が低くなり、自己評価もＢに下がっている。１６項目中評価が一番低くなっており、読書指導の充実を図る必要がある。

６　改善策

（１）英語活動については、今後とも、他校の様子等の情報を集めるなどして、積極的に活動内容を改善していく。

（２）「学校が楽しい」と思えるよう授業の充実を図るとともに、運動会や異学年交流等の高学年が活躍する場面において一人一人を賞賛したり、活動を振り返る際に、教師が子どもたち自らの成長を感じさせたりして、高学年児童の自己有用感を高める。学校行事等で児童が役割を担う際には、事前事後指導の工夫をし、児童が充実感をもつことができるようにしていく。

（３）本年度より算数科で、ユニバーサルデザインを取り入れた研究に取り組んできた。その成果を日常の学習活動にも生かしていくことで、意欲的に進んで学ぶような工夫をしていく。

（４）朝行っている「読書タイム」に今後とも取り組み、学級文庫の本の冊数やジャンルを増やすなど読書環境をさらに充実させ、読書に対する意識を高めていく。家庭での読書習慣をつけるために、家庭への協力を呼びかけたい。